

## 第2回 日本創造学会著作賞

受賞著作：「セレンディピティの探究」 角川学芸出版 澤泉重一著（片井修氏との共著）

**(受賞理由)**「日本において、従来ほとんどが事例紹介にすぎなかった「セレンディピティ」という創造性の重要なトピックに新たに学問的・理論的な光を当て、その理解を深めたこと」

**(決定経緯)**学会賞選考委員は理事と評議員の代表、計10数名から構成されています。今回の応募は10件で、各著作を複数の委員が担当し、約1カ月で精読し、複数の視点から評価し推薦理由も記して提出しました。それをもとに最終の選考委員会にて、直接その著作を回覧しながら、担当委員の評価とそ  
場での説明を聞き、全員で徹底的に議論しました。

その検討の結果、上記著作が学会賞にふさわしいと全員一致で推薦されました。その他の著作に関しては、現在の創造性研究の知見をふまえているか、創造性に関する何か新たな知見があるか、また独自の手法なら、それが従来の手法にない有効性を持っているなどの証拠はあるか(手法に関するビジネス書等は多数存在する)などの観点から検討されました。結果として、異論なしに学会賞に推薦できるものはなかったということです。なお今回一般書の応募が多かったこともあり、現在、著作賞に学術書とは別に一般書のカテゴリーを設けるかどうか検討しています。

いずれにしても、著作賞は、学会が責任を持って社会に推薦する賞なので、学問的貢献でない場合でも、現代創造性研究の知見をある程度ふまえているか、学会や社会への貢献が明らかであるか、などは今後も重要な評価基準になります。なお表彰式は、2009年度研究大会の懇親会場にて、論文賞、大会発表賞とともに行われます。

(文責:学会賞委員会 奥正廣)